

所 報

第 51号 2004年9月発行
発 行 者 沖縄県立総合教育センター
所 長 前泊豊光
〒904-2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地
電 話 098-933-7555
F A X 098-933-3233



人から人への“タスキ”をリレーする

所長 前泊 豊光

『 誰にせよ、望み焦がれていながらも
もう、あきらめかけていた、そのものが
自分のものとなるときは
心もしびれる、それは喜び
されば、私にとっても同じこと
黄金にも優る、それは喜び 』

古代の愛の詩だという。先日、教育センターの研修終了後、予期せぬ事が展開した。講座担当の指導主事の身体が受講者により二度、三度宙に舞ったのである。感謝の気持ちを体で表現するパフォーマンスに驚くと共に、研修の最も基本に触れたような思いがする。この時の受講者の気持ち、上述の詩と重なっていると勝手に解釈している。

さて、今ほど、主観性が絶対視され、客観性が軽視されがちな時代は無かったのではないと言われる。「場所を意識せず携帯電話で・・・」「ところかまわず化粧する・・・」等、不快感を与える行為が平然と繰り返されている。“気持ちがいい”、“楽しい”事を否定はしないが、今、何がしたいかだけでなく、何をしなければならぬのかを意識できなければ、単なる独りよがりの人間としか映らない。

「自由とわがままの違いは他人を妨げるかどうかにある。」(福沢諭吉)すなわち、自分のしたいことをするのが自由ではなく、人としてすべき事をするのが自由だと言える。

また、個性を伸ばすと言うことが学ぶことと対立しているか如き言動も目立つ。「知らないとなんだって言うの？」と聞き直る大学生もいるとか。その言い訳として引き出さ

れるのが「個性」であり、創造活動の先端を走る人たちに対する勘違いである。独創的な人たちは、“学ぶスピードが速い”と言われる。そのことが、他人からは、学んでいる状態を見えにくくし、あたかも、基礎的な力はなくとも想像力があるように錯覚させている。

「自由」と「個性」という言葉が一人歩きし、多様な行動を生み、その事が児童生徒の生き方に少なからず影を落としている。その結果、学校教育における教師の指導力が質量共により高度なものを求める社会を作り出している。

しかし、この現象は本県だけの特異なことではない。全国的にこのような社会の意識改革として独創的な取り組みが展開されているが、静岡県で平成11年から取り組んでいる「意味ある人」づくりは、興味深いものがあり、注目に値する。同県が学校教育ですすめている「こころざし」を持った静岡の子ども育成は、精神的に自立し、思いやりの心を持って、何かが出来るという「意味ある人」に基づいている。「自分を磨く」「自然と生きる」、「人と出会う」事を柱とした「こころざし」を持った人づくりは魅力的である。

教育センターは、教育実践を深めるための学びの場である。「自由」と「個性」が「学び」と連動したとき、「意味ある人」づくりが推進できるものと考えます。

また、教育センターは人から人へ襷をつなぐ場でもある。自分の弱さを知る鏡を持ち、克服する場を得てリレーするのである。教師として「教える」だけでなく「教える内容」のプロとしての襷が冒頭に書いた多くの研修の場で「それは喜び」となって、各学校に生かされることを願ってやまない。

*****もくじ*****

(ページ)

▶「人から人への“タスキ”をリレーする」…………… 所長 前泊豊光	— 1 —
▶「ITを活用した確かな学力を身につける教育の推進」「メダカと環境教育」	— 2 —
▶「おもしろ学習教室」「大好評！体験学習教室」	— 3 —
▶「特別支援教育に向けた取り組みについて」「所外研修」	— 4 —
▶「長期研修事業について」「研究室便り」	— 5 —
▶「短期研修事業について」	— 6 —
▶「花と緑豊かな環境づくり」「平成16年度調査研究事業」	— 7 —
▶「初任者研修 国際理解教育と沖縄の伝統文化・福祉体験研修」「ニューA L T紹介」	— 8 —

ITを活用した確かな学力を身につける教育の推進

— 教科におけるIT活用研修の実施 —

IT教育センターでは、情報化に対応した教育を実現するため、「沖縄県e-island宣言」等に基づき、「2004年度までに、沖縄県のすべての教員がコンピュータで指導できるようにする。」ことを目標に、IT教育研修の実施、教育用コンテンツの開発・普及などを推進しています。

平成16年3月の文部科学省の調査によると沖縄県の「コンピュータで指導できる教員」は、92.4%(全国60.3%)となって全国1位となっています(表1参照)。

表1：コンピュータで指導できる教員の割合

学校種	沖縄県(前年度)	全 国
小学校	95.2%(69.8%)	72.7%
中学校	91.8%(50.5%)	53.8%
高等学校	90.1%(74.3%)	46.1%
特殊教育諸学校	89.4%(90.7%)	48.5%
合 計	92.4%(67.6%)	60.3%

コンピュータで指導できる教員の育成は、ほぼ達成できたと考えます。そのため今年度からは「確かな学力の定着」のために、授業におけるITの効果的な活用をめざして、小・中・県立学校の各教科におけるWeb教材活用講座などのIT教育研修を実施しました。

IT教育センターでは、インターネットなどのネットワークをとおして、授業で活用できる教材や画像、動画素材(約3万点)を提供しています。

表2：公開している教材の特徴

各教科の授業や家庭学習などで活用できる教材 ・ 個々のペースで個に応じた学習課題で個別指導ができます。 ・ 「わかった」「できた」という体験をしながら意欲的に学習に取り組めます。 ・ 場所と時間を問わずインターネットで学習できます。
授業で使える静止画や動画が約2万点掲載されています。 ・ 沖縄関係素材 ・ IPA教育用画像素材集
研究報告、学習指導案、学習教材 ・ 沖縄のエイサー(動画) ・ 教育センター研究報告 ・ その他

公開URL <http://www.open.ed.jp>

(文責：IT教育課 諸見里 勲)



メダカと環境教育



当教育センターの池では2001年11月に、沖縄産メダカが放流され、現在は相当数のメダカが群をなして泳いでいます。この沖縄産メダカは県内での分布が沖縄島、渡嘉敷島、久米島に限られていることから移入種とする説もありますが、九州以北産とは分子レベルで異なるという研究もあり、自然分布か否かは未だ結論が出ていません。沖縄県は現段階では本種を自然分布の可能性の高い地域個体群として保護の対象としています。

ところで、近年沖縄産メダカを勝手に「リュウキュウメダカ」と称し、環境教育の一環としての放流活動などが紹介されています。名称はもちろんの事、本来の分布地以外への放流はもっての他で、環境教育の一環であれば、尚更、指導者は慎重に扱って欲しいものです。

とは言え、少なくとも沖縄島においては過去には河川や水田・池沼を中心に、南部でも生息しており「タカミー」の方言名で子ども達の遊びの対象でもあったメダカを、地域本来の自然の復元(ビオトープの考え)のシンボルとして、その保護活動に取り組む行為については異を唱えるつもりはありません。ただし、「何故沖縄産メダカは絶滅の危機に瀕しているのか」の原因についても正しく指導しておきたいものです。必要があります。沖縄産メダカは1970年代に急速に減少し始めました。渡嘉敷島でも久米島でも土地改良整備事業などによる池・沼の消失や、河川の三面張り工事などにより、その生息地が失われ、僅かに残った生息地でもグッピーやカダヤシ(タツプミノ)などの外来種により駆逐され、現在は殆どその姿は確認されていません。

環境教育の基本的理念は「世代間公平」、つまり、私たちが享受してきた自然の恵みや、限りある資源から得てきた恩恵を、次の世代へも残していくという考え方にあります。言い換えれば持続可能な資源や自然の活用のあり方を教えることにあるのです。メダカの保全にも生息環境の保全や復元が必要であることも同時に教えておきたいものです。

最後に、当センターのメダカは、学校での教材としての活用であれば、資料と一緒に譲りしております。

(文責：理科研修課 安座間 安史)

おもしろ学習教室

—親子がふれあう楽しいひととき—

当センターにおける「体験学習教室」の一つである「おもしろ学習教室」。今年度より、教科の特性を生かした教室を7つ準備して多くの親子を受け付けました。

できたシーサー
は家のどこに飾
ろうか？



参加した親子は153名に達し、夏休みの宿題のためもあったか、どの親子も時間ぎりぎりまで課題に取り組んでいました。日頃ふれあいの少ないお父さんの出番やお母さんを助ける場面などさまざまな親子の姿が見られ、皆笑顔で活動している姿が印象的でした。



お父さん！！
なかなか火が
つかないね



お母さん！
そっちじゃないよ！

《 開設された教室名 》

- A教室「親子でつくるミニ漆喰シーサー」
- B教室「親子で遊ぼう！英会話」
- C教室「親子で読み広げる絵本の世界」
- D教室「親子でリコーダー」
- E教室「親子で学ぶ応急処置」
- F教室「親子で楽しむ図形(折り紙遊び)」
- G教室「火をおこそう！これであなたも縄文人！」

(文責：教科研修課 池原盛浩)

大好評！ 体験学習教室



平成11年度から実施されてきた「体験学習教室」は今年度で5年目を迎えました。今年度はすでに「おもしろ学習教室」「親子リトミック教室」「先端技術体験教室」「たのしい体験教室①②」「親子星空教室①②」「おもしろ科学教室」の教室が実施され、募集定員を超える児童・生徒・保護者の参加があり、好評を得ています。

子どもたちからは「とても楽しかった」「もっと時間があればよかった」「またあったらいいと思う」、保護者の方々からは「とても楽しく参加させて頂きました。『どうして？』『なぜ？』という好奇心から遊びを発展させていく体験をたくさん経験していけたらいいなと思います。」「また是非参加したいです。」「はじめての参加でした。子どもの満足の笑みに私もストレス解消ができました。次回は家族で参加したいと思います。とても素晴らしい体験学習だと思います。」などの声が聞かれています。

また、この体験学習教室には多くの学校の先生方、中高校生、一般の方々に教育ボランティアとして参加して頂いており、より子どもたちに細かな指導が行き届くようになっています。これも、好評を得る一因となっています。これからは「たのしい体験教室③～⑥」「親子星空教室③④」「おもしろ科学教室 in 国頭・中頭・島尻・離島」を予定しています。これからも多くの児童・生徒が実験、実習を通して学習する喜びを実感できるよう、一層の充実を図っていきたいと思っています。



(文責：理科研修課 宇良圭代)

特別支援教育に向けた取り組みについて

平成15年3月、文部科学省・調査研究協力者会議から「今後の特別支援教育の在り方について」の最終報告が出されました。その基本的な方向は、障害の程度等に応じ特別の場で指導を行う「特殊教育」から障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」への転換を図るものであります。

その中でも、小・中学校に在籍する学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症の児童生徒への対応は「緊急かつ重要な課題」との認識が示されています。今、本県でも各市町村教育委員会において、平成19年度までにすべての小・中学校に「特別支援コーディネーター」の指名を目指して養成講座を開設したり、専門家チームによる巡回指導の計画や小・中学校への教職員の研修などの取り組みがなされようとしています。

本センター特殊教育課の障害児教育相談において、本年度全相談件数71件のうち29件（41%）が小・中学校の教師や保護者から軽度発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症）の学級における支援の仕方や家庭での養育についての相談内容となっています（図1参照）。

このようなニーズに応えるため、平成16年度より「軽度発達障害研究室」を新設し、軽度発達障害教育の講座開設、教育相談対応の充実、小・中学校の校内研修への指導主事派遣等を行っているところです。また、障害のある幼児児童生徒一人一人について「個別的教育支援計画」を作成することが求められており、今後、学校や教師へ必要な情報が提供できるよう「個別の指導計画の現状と課題」について、個人研究、共同研究を進めているところでもあります。

「特別支援教育」を推進する上で、地域の盲・聾・養護学校が、これまで蓄積した教育上の経験や知識を小・中学校に活かしていくセンター的役割が求められていることから、本センター特殊教育課では教職員の専門性の向上を図る研修や盲・聾・養護学校と連携した教育相談の強化を行い、各小・中学校へ適切な支援の整備を進めているところです。

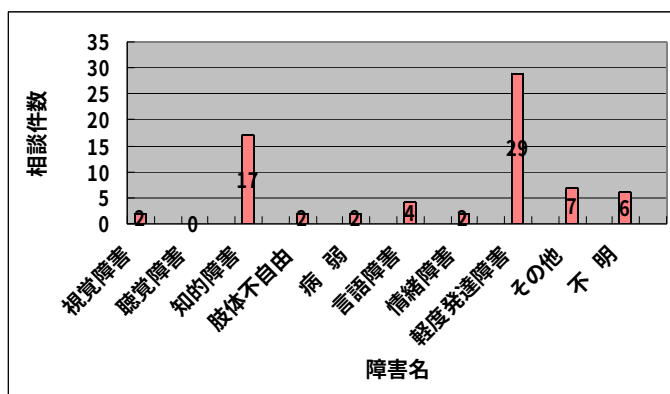


図1 障害別相談件数（H16 4月～7月累計）

（文責：特殊教育課 町田 裕）



『有限会社名嘉真製菓における技術研修』

長期研修員 仲村 志奈江

長期研修の一環として、地域の食文化に関する知識や技術を習得するために、有限会社名嘉真製菓において5日間の所外研修を行いました。

名嘉真製菓では、ちんすこうの製造工程や流通について学習し、ちんすこうの箱詰め作業も行いました。箱詰め作業で最も注意すべきことを質問すると、数を間違えないようにとのことで、数秒で箱詰めを終えてしまう社員の傍で必死に箱詰めをしました。その際、ちんすこうの個包装は中身が見えるので目で確認し、割れているものは取り除き、パインクッキーやチョコレートをコーティングしたちんすこうの個包装については、中身が見えないので触って割れていないか確認するなど、商品の外観に細心の注意を払っていることに感心しました。

また、材料は機械で攪拌するので、ボール部分に接触してその金属片が生地に混ざっていないか、万一のため、箱詰め前に金属探知器で点検していることも知りました。最も驚いたことは、オーブンが家庭用のように密閉式ではなく、出入り口が高さ約10cm開いていて、ベルトコンベヤー式で長さ10cm以上のオーブンの中をちんすこうの生地が約15分かけて流れ、出てきた時には製品として出来上がっていたことでした。割れたちんすこうは一日当たり生産量の1%未満で、ごく僅かだということも驚かされました。

これまで経験することのなかった企業の現場に触れ、ちんすこう一つでも奥が深いことを実感し、楽しく研修を進めることができたことは、今後の研修活動に大きく役立つものと思っています。

平成16年度長期研修事業

平成16年度 長期研修員数(校種別)										
各課	6ヶ月研修									
	幼稚園		小学校		中学校		県立学校		合計	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
教科			7	6	4	8	9		20	14
経営	1	2	1	5	1	3	1		4	10
理科			2	2	2	4	5		9	6
特殊				1			5	5	5	6
IT										
産業										
合計	1	2	10	14	7	15	20	5	38	36

あっという間の6ヶ月

ー長期研修を終えてー

県立北中城高等学校教諭

(教育相談研究室)

津 留 千 賀 子

あっという間の6ヶ月間でした。右も左もわからず、スタートした4月2日の入所式。これからやっていけるだろうかという緊張と不安でいっぱいでした。『光陰矢の如し』とは、まさにこのことではないでしょうか。

りくつ抜きに、今回の研修で私が得たものは、「出会い」と「学び」でした。「出会い」では、教育センターで「師」と呼べるすばらしい先生方との「出会い」。そして、幼、小、中の異校種の先生方との「出会い」。この「出会い」によって、自分の視野や考えが広がり、私自身を成長させてくれたと思います。

がんばった「学び」については、「学ぶ楽しさ」を再確認し、心のエネルギーを回復することができました。県外の大学教授にメールを送った際、なかなか返事がなく、ドキドキしながら待っていた等の思い出もあります。新しいこと、知らないことを「学ぶ・知る」ために、自分で努力することはとても充実していました。学校現場で、生徒にもこの「学ぶ楽しさ」を伝えることが、この研修を生かすことであると感じています。

とくに感謝しているのは、私の主体性を尊重し、論文の構想から作成にわたりご指導、ご助言してくださった担当主事存在でした。時には解決志向アプローチで私の肯定的事実を見つけ、励ましてくださいました。また、常に前向きな助言を頂いた教育経営研修課の主事の先生方には心より感謝の意をお伝えします。

うれしく思うのは、いつも温かく励ましてくれ、共に学んだ研修員の先生方の存在でした。先生方の学校現場でのご活躍を期待しております。

研究室便り



化学研究室

宮平 武 研究主事

本研究室では、研修員とともに毎週水曜日それぞれが、一つずつ実験や教材を持ち寄って紹介する自己研修を行っている。個人が持っているノウハウや生徒が飛びつきそうな実験、それにテクニックを要する実験を学んでいる。教師が持っている知識量や高度な技術等を広く多くの教師や一般の人々に紹介することで、化学を広めることができ、それをまとめることができたかと考えている。私たち教師はユニークな実験や自分で工夫した教材が生徒に感動を与えた時、喜びを感じるもので、これからも切磋琢磨して自己研鑽しながらお互いの研修を深めていきたい。研修した事例を一つ紹介する。

(人工いくらを作る)

- ① アルギン酸ナトリウム、塩化カルシウムをそれぞれ水に溶かす。
- ② アルギン酸ナトリウム水溶液に食紅を加え、スポイトでシャーレに入れた塩化カルシウム水溶液に一滴ずつ加える。
- ③ 20秒ほどで人工いくらができる。

「解説」天然いくらと人工いくらを見ただけでは区別がつかない。寿司には多くの人口いくらが使われているのでその区別法を紹介すると、天然ものはお湯に入れたとき白くなるが人工ものはならない。



軽度発達障害研究室

比嘉 浩 指導主事

平成16年度新設された「軽度発達障害研究室」を担当して

5ヶ月。4月から8/31現在39件、12校、9講座、のべ人数？人。

この数字は、今年度軽度発達障害研究室の担当主事として対応した業務関連の数字である。ちなみに、39件は小・中学校に在籍する軽度発達関連の教育相談件数、12校は校内研修の講師招聘として出向いた学校や訪問指導として出掛けた学校の総数である。9講座は短期・長期研修や初任研や10年研等の経年研修等で、LD、ADHD等の理解と支援の内容で担当した講座数となる。私がかかわったのべ人数は、3ケタ以上の数字となることは確かである。これも特別支援教育の流れの中、よりニーズを求められている研究室であると捉え、最も働く指導主事として、馬車馬のごとく頑張る所存である。

一応募者増加傾向の短期研修講座一

授業づくり支援の実績定着

学校では、「如何にわかりやすく、たのしい授業づくりをすればよいか」「自ら学ぶ子どもを育てる指導はどうあるべきか」等、授業づくりや指導のあり方について、教師は、日々取り組んでいることだと思います。特に、新たな教育の創造が求められている今日、その思いは尚更のことだと考えます。

当総合教育センターにおいては、今年度も教師の指導力と資質向上を図るために、今日的課題を踏まえた講座や理論と実践を踏まえた講座等、74講座を開設しました。その結果、県下2655名の教員の応募者がありました。これは、昨年と比べても増加傾向にあり、短期研修が各学校の夏期研修として定着しているものと考えます。地区毎、校種毎の応募状況は下記表に示す通りです。

(平成16年度短期研修応募者数)

	幼稚園(人)	小学校(人)	中学校(人)	
国頭地区	22	289	42	
中頭地区	59	535	90	
那覇地区	11	300	56	
島尻地区	27	337	99	
宮古地区	4	100	24	
八重山地区	0	217	50	
合計	123	1765	354	
	普通	専門	特殊	合計
県立学校	26	166	181	373
国・私立学校	19			

一小学校国語講座一

今回、小学校国語講座においては40名の定員に対し、297名の応募があり、現場の先生方が講座に対して大きな期待をかけていることが分かりました。今年度は、「声に出す」をテーマに、琉球大学教授（声楽家）の泉恵得先生を講師に「声の訓練、話す訓練、発声法のウルトラDまで」の講話や実技を通して、声の深さ、声の響き、声のつや等、人間の声の見事さについて学びました。

さらに、この講座の中では、具体的な朗読の技術や国語科の基礎基本、個に応じた指導の講義、実践事例発表を行いました。

受講者の感想

- ・*発声（音読）の仕方や国語科の基礎基本について具体的に一つ一つ確かめながら納得することができた。
- ・*今現場で、個に応じた指導や指導と評価の一体化は、かなり難しい課題であるが、本研修で見えてきたものがあり2学期から生かしていきたい。



泉先生の「ウルトラDの発声法」

一幼稚園教育講座一

幼稚園教育講座は123名が受講した。午前中は「なぜ？ どうして？ 科学の芽を育む」のテーマで理科研修課指導主事の協力を得て「作って遊ぼう」「電池で遊ぼう」「沖縄不思議発見」と3グループに分かれての実習を行い、大好評でした。

午後は、「生きる力を育む幼稚園の生活」の講義と実践事例の発表及び研究協議を行い、活発な協議がなされました。講座の最後は、元NHK「お話の国」の朗読者でタレントの高見知佳さんによる「心を育む読み聞かせ」の講話で締めくくりました。

受講者の感想

- ・試したり工夫したり不思議さを再発見。明日にでもすぐに生かしたい内容であった。実習・実践発表・講義・講話と充実した研修で毎年受けたいと思った。
- ・生活科や化学研究室・地学研究室での研修は、幼児教育を違う視点から考えたり見直す良い機会となった。
- ・「心を育む～」の講話は心にしみいり感動した。人間として大人としてどう幼児と向き合うか考えさせられた。





初任者研修

「国際理解教育と沖縄の伝統文化」

去る8月9日（月）に初任者研修「国際理解教育と沖縄の伝統文化」が宜野湾市民会館及び国立劇場おきなわで行われた。この研修は、本年度沖縄県で採用された全校種（幼・小・中・高・特殊教育・養護教諭）476名の初任者が一堂に会し、国際理解教育の進め方と沖縄県の伝統文化について研修を深めることを目的とした他県ではあまり例を見ない研修である。

午前の宜野湾市民会館で行われた「国際理解教育の進め方」では、沖縄NGO活動推進協議会の玉城直美先生が講演を行った。玉城先生は、ご自身が青年海外協力隊で派遣された外国の話を交え国際理解教育の必要性について指摘され、重ねて学校教育でそれを行うことの重要性を初任者に訴えた。特に参加者から好評を得たのが下記の写真の「世界がもし100人の村だったら」という参加型ワークショップである。初任者を生徒に見立てて舞台上に上がってもらい性別、年齢、言語、人口比率など様々な視点から世界を捉える参加型の授業実践は各学校で今後盛んに取り組まれることを予感させるほど素晴らしい内容であった。午後の「沖縄の伝統文化」では、今年1月に開場した国立劇場おきなわにおいて第1部「舞踊」、第2部「組踊」を鑑賞した。内容的には第1部の「舞踊」では、老人老女、若衆ぜい、上り口説、かせかけ、加那よ一の5題を、第2部の組踊では「花売の縁」を県立芸術大学の卒業生及び在校生の皆さんに演じて頂いた。

初任者の中には近年県外からの採用者も多く今回初めて沖縄の舞踊、組踊を見る者も少なからずおり沖縄の伝統文化に触れる絶好の機会となったという感想が数多く寄せられている。また、県出身者の初任者からも素晴らしい舞台施設での鑑賞は改めて沖縄文化の豊かさや奥深さを認識できたとの意見が寄せられた。



「世界がもし100人の村だったら(ワークショップ)」

「福祉体験研修終わる！」

初任者の福祉体験研修が本年度も8月16～19日の4日間、県内22カ所の福祉施設で行われました。142名の初任者が県下の各研修先で有意義な研修を行った。

宜野湾高等学校 教諭 比嘉 由紀子

お年寄りの介護レベルはそれぞれ異なり、それに応じた介護が必要であることに体験を通して気づかされた。また、配膳の際お年寄りに声をかける場合にも、ただ「ヨーグルト飲みましょう」ではなく「便通がよくなるからヨーグルトを飲みましょう」という風に、なぜヨーグルトを飲む必要があるのかという理由をきちんと伝えていた。何か行動させる時、理由をきちんと伝えて納得させた上で行動させることは、今後生徒と接していく上でも非常に重要なことだと思った。



「ALT紹介」

Message from the ALT of the
Okinawa Prefectural
Education Center (2004-2005)

Greetings. My name is Levia Y. Davis and I am from West Palm Beach, Florida. I attended Florida A&M University (FAMU), which is located on the highest of 7 hills in Tallahassee, Florida. During my matriculation at FAMU I was a member of Alpha Kappa Alpha Sorority, Incorporated, ACM Club, NAACP, Golden Key International Honor Society and the FAMU Volleyball team. In 2002 I graduated, magna cum laude, with a Bachelor of Science degree in Computer Information Systems and Business Administration minor.

My hobbies include playing volleyball, deejaying, listening to music, hanging out with my friends and meeting new people.

At the Okinawa Prefectural Education Center I teach English conversation classes in the Subject Division office and various seminars at the IT building.

I am extremely honored to be working at the Education Center and am looking forward to all of the challenges and adventures that lie ahead.

生徒実習

－ I T 教育課 －

発展型IT学習「IT語学活用セミナー」の実施

IT教育センターでは、より充実した発展型IT学習の機会を提供し、生徒の情報活用能力及びコミュニケーション能力の育成を図るため、「IT語学活用セミナー」を実施しました。

〔期間〕

- ・ 8月2～4日（3日間）中学校35名
- ・ 8月18～20日（3日間）県立学校35名

〔内容〕

- ・ プレゼンテーション方法
- ・ マルチメディア機器の活用
- ・ インターネットの活用
- ・ Webページ作成法
- ・ ALTとの英会話演習



－ 産業教育課 －

首里高校デザイン科（40名）が本課に！

熱心に！！

実習風景→



☆生徒実習の実績（4月～8月）

分野	研究室	実習回数	生徒受入数
農業	バイオ・分析	22	287
工業	新素材・FMS	34	216
商業	ビジネス	3	120
情報	マルチ・通信	8	232
	計（延べ）	67回	855名

産業教育課（産業技術教育センター）における4月～8月までの生徒受入実績を上記に示すとおり、バイオ・分析研究室以下4分野の実績は、回数延べ67回、受入数855名に達しました。8月には農林高校（八重山農林含む）が夏休みも返上し熱心に実習を行いました。9月からは、商業高校の実習が数多く計画されており、本年中には約3千人近くの生徒たちが当課に来て学習します。

花と緑豊かな環境づくり

当総合教育センターではボランティアによる美化活動が行われております。毎朝、正門や各課棟の周辺では草刈機や芝刈機の音が響き、作業服やジャージに着替えた所員、研修員の方々が竹ボーキや刈り込みバサミ等を片手に掃き掃除や樹木の手入りに爽やかな汗を流しています。

また、毎月一回、開催される美化活動「フラワーフライデー」でも全員が一同に集まり、花壇の植栽や樹木の管理等を実施しています。休日のかん水管理は所員が当番で行っています。植物はとても正直者で世話をした分だけその成果を見せてくれます。



平成16年度調査研究事業について

当総合教育センターでは、学校教育の充実と各学校の課題解決に資するために、学校教育の諸問題について調査研究を行いその成果を、研究報告書、実践の手引き、指導資料集を作成して各学校に提供しています。平成16年度の研究テーマは次の通りです。

①所内共同（プロジェクト）研究

「児童生徒の学習に関する基本調査」

②課内共同研究

教科	指導と評価の一体化に関する研究
教育経営	職務研修の充実発展に関する意識調査
理科教育	体験的学習の充実に向けた資料作成
IT教育	教育用ネットワークの拠点としての学校支援に関する研究Ⅱ
特殊教育	沖縄県の特殊教育諸学校における個別の指導計画の現状と課題
産業教育	シラバス作成・実施の現状と課題

③各主事の個人（協力者共同）研究

◎平成17年2月14日：総合教育センター発表会